

第9回武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会後の傍聴者意見と回答

構成員	意見	回答
佐々木 礼子	<p>下流部築堤区間の早期整備と、全断面魚道を導入して頂いたことに感謝申し上げます。千刈ダムの治水活用を含め、武庫川の被害が抑えられていると感じる。</p> <p>次期河川整備計画においては、気候変動の基本高水への影響など、考える必要がある。また、健全な水循環の確保について、流域委員会当時は水収支や正常流量などを考えていたが、現在はそこまでの言及は無いように思う。次期河川整備計画の立案時には考える必要がある。</p>	<p>水循環について、今の整備計画内においては、実践できるものからやることとなっている。</p> <p>次期河川整備計画の検討課題と考えている。</p>
吉田博 昭	<p>一級河川の場合、市民参画の機会の提供として、「川の通信簿」がある。これに倣い、市民が参画する仕掛けづくりを作り、呼び掛けてもらいたい。</p>	<p>市民参画については、流域圏ネットワークと相談を進めている。</p> <p>オオキンケイギクや、下流の自然環境を主眼とした取り組みも考えていきたいので、引き続き協力をお願いしたい。</p>
山本義 和	<p>武庫川流域圏ネットワークという市民環境団体をやっており、工事現場の見学や、県による講演、オオキンケイギク駆除のイベント、津門川での魚道改良など、行政に協力してもらっている。</p> <p>市民と行政、研究者、技術者の協力という形で、川はよりよくなっていくと思っている。</p> <p>三田市でのオオキンケイギクの駆除についても、行政と市民、技術者が一体となってやれるような試みを、実現してもらいたい。</p>	
白神理 平	<p>潮止堰の撤去による汽水域の拡大や、全断面魚道の導入により、武庫川が変わってきている。</p> <p>植生や生き物も含めて変わった魅力を小学生、中学生などに伝えるため、年に1回でも2回でも、生き物祭りのようなことを企画して頂きたい。</p>	